

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査(前回比較版)

令和8年1月5日～令和8年2月2日を調査期間とし、市内65歳以上の方で、要介護認定を受けていない方のうち、3,000人を抽出しアンケートを行いました。

3年前の調査結果と比較するため、結果値を(前回値→今回値)で表示しています。

1 実施概要

調査対象者	今回 R7	前回 R4	増減
調査対象者数	18,281 人	18,119 人	-
回答数(回収率)	2,223 人(74.1%)	2,199 人(73.3%)	0.8%増

地区別回収率(全体)	東部地区(第1)	中央地区(第2)	西部地区(第3)
計 74.1%	71.4%	74.1%	75.8%

2 本人の状況

介護・介助の必要性 (P6～P12)
・普段の生活で介護・介助は必要ない(80.5%→81.3%) ・普段の生活で「何らかの介護・介助が必要だが現在は受けていない」、「現在、何らかの介護・介助を受けている(16.4%→14.6%)

からだを動かすことについて (P13～P18)
・過去1年間に転んだ経験がある(32.1%→33.1%) ・転倒に対する不安がある(59.4%→59.6%) ・外出を控えている(34.9%→19.4%)

食えることについて (P19～P25)
・全体の低栄養リスク(1.3%→1.1%)P78 ↳東部地区(1.7%→1.1%)、中央地区(0.7%→1.5%)、西部地区(1.6%→0.7%)、 ・孤食傾向にある(21.3%→21.3%)

毎日の生活について (P26～P35)
・IADL の低下(16.1%→13.2%)P84 ・趣味あり(63.0%→64.7%) ・生きがいあり(53.4%→51.4%)

IADL: 買い物、食事の準備、服薬管理、金銭管理などより複雑で労作が求められる活動を行う能力

健康について（P56～P63）

- ・健康状態がよくない(18.6%→18.6%)
- ・現在治療中、または後遺症のある病気（高血圧 47.8%→49.9%）
- ・フレイルの認知度(20.7%→27.8%)

介護が必要になった場合の暮らし方（P64～P67）

- ・介護が必要となった場合、自宅を希望する人(64.5%→60.4%)
 - 「自宅で家族などを中心に介護してもらいたい」(16.2%→14.8%)
 - 「自宅で介護サービスや福祉サービスを活用したい」(48.3%→45.6%)
- ・老人ホームや病院に入所したい人(23.3%→20.4%)
- ・住宅型有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅に入居したい(6.3%) 追加項目

3 本人を取り巻く環境の状況

地域での活動について（P36～P42）

- ・参加していない割合が全体的に減少(無回答が増加しており、適切な比較ができない)
 - 「趣味関係のグループ」(59.6%→43.0%)、「学習・教養サークル」(69.9%→48.4%)、
 - 「町内会・自治会」(60.0%→40.3%)
- ・「収入のある仕事」をする割合(週1回以上 19.0%→16.9%)

就労について（P43～P44） 追加項目

- ・引退した(51.8%)
- ・就労している人(35.4%)
 - 「常勤(フルタイム)」(7.5%)、「非常勤(パート・アルバイト等)」(11.3%)、「自営業」(16.6%)

たすけあいについて（P45～P51）

- ・家族や知人以外の相談相手がいらない(46.3%→46.7%)
- ・友人・知人と会う頻度があまりない（34.9%→34.9%）
- ・よく会う友人・知人がいない(11.4%→12.1%)

日常生活での困りごとについて（P52～P55）

- ・手助けしたくない(4.0%→4.1%)
- ・生活必需品の買い物
 - 「徒歩圏内にある小売店で買っている(コンビニ含む)」（39.9%→43.6%）

認知症にかかる相談窓口の把握について（P66～P69）

- ・地域包括支援センターの認知度(43.7%→47.4%)
- ・認知症の理解(わからない 9.2%→8.6%)
- ・認知症相談窓口の認知度(17.2%→17.8%)

認知症に対するイメージについて（P70～P72）追加項目

- ・家族や医療・介護などのサポートを利用すれば自立した生活を送ることができる(65.6%)
- ・身の回りのことができなくなるため、介護施設に入ることが必要となる（67.1%）
- ・周りの人に迷惑をかけてしまうことがあるので、地域で生活することが難しい(61.9%)

成年後見制度について（P73～P74）追加項目

- ・成年後見制度の認知度
「制度を知らない」(64.8%)
- ・成年後見制度の相談先
「わからない」(43.4%)

4 調査結果から見える地域特性（P91）

東 部 地 区 （第1日常生活圏域）	・普段の生活で介護・介助が必要である人の割合が最も高い。 ・趣味や生きがいを持っている人の割合が最も低い。 ・介護予防のための通いの場へ参加する人の割合が最も高いが、町内会・自治会へ参加する人の割合は最も低い。 ・要介護認定者の割合が最も多く1人暮らし高齢者が多い。今後、介護・介助のニーズが一層高まることが想定されるが、経済的に苦しい割合も高く、経済面から必要とするサービスを利用できない可能性も考えられる。
中 央 地 区 （第2日常生活圏域）	・家族構成では、3圏域のうち夫婦2人暮らしの割合が最も高い。 ・スポーツ関係のグループやクラブに参加している人の割合と収入のある仕事をしている人の割合が最も高いものの、各種グループに参加していないと答えた人の割合も最も高い。 ・転倒リスク及び低栄養リスクのある人の割合が最も高い。 ・フレイルの認知度が高く、銚子プラチナ体操や情報冊子「ちょーぴーのやさしさ便利帳」を知っている人の割合も高いことから、健康などに対する感度が高いと見込まれる。
西 部 地 区 （第3日常生活圏域）	・後期高齢者及び要支援認定者の割合が最も低い。 ・BMI では、男性の肥満は最も低かったが、女性の肥満は最も高い。 ・趣味関係のグループに参加している人の割合が低い。 ・自身が介護が必要となった場合に自宅で家族などを中心とした介護を希望する人の割合が高く、最期を迎える場所として自宅を希望する人の割合が最も高い。その一方で、最期をどのように迎えたいか家族と話しあっている人の割合が最も低い。